

イグサ栽培の労力

山田 寿夫・村上 知之

(熊本県八代農業経営試験場)

YAMADA, H, and MURAKAMI, T.

Surveys on the Labour requested for the
Cropping of Rush Plant in Yatsushiro District

八代地方の農業経営におけるイグサの重要度は経済的にも労力的にも極めて大であるが、農村労力の減少・労賃の高騰等に直面して作業労働の合理化が強く要求されるので、農家の実態を知る目的でその調査を行った。

1. 調査方法

昭和35年12月植付し翌年収穫したイグサについて、八代地方の旧10カ町村を対象に各階層から計 100戸を選び、作業記録を委託した。回収は26戸にとどまった。

2. 調査結果

26戸の集計結果は第1表のとおりである。但し内1戸は8戸よりなる完全共同経営であるが、便宜上1戸として扱った。

10a 当り労働時間は平均 317.3時間であつたが、これは従来いわれてきた約 500 時間（註：農林統計では34年501.8時、35年470.3時）よりかなり下廻っている。この年は収穫期に特に晴天に恵まれ、収穫の能率が上つたことにもよるが、耕耘機の導入、除草剤の普及等農家が省力に努めたためといえよう。

1. 10a 当り労働時間と経営条件

調査完了農家が少なかつたので大別して経営条件と労働時間との関係を見ると第2表の如くである。250～300時間のものが最も多く、300～350時間がこれに次ぎ、最低の190.8時間の2倍も要した400時間以上の

第1表 イグサ栽培の作業別労働時間

	最大	最小	平均	割合	備考	
経営面積 a	1,280	36	239		共同経営を8戸とすれば 189	
内イグサ a	365	9	55			" 43.1
早刈栽培率 %	70	0			" 男1.4	
家族労力 人	男9女9	男1女1	男1.8女2.0		" 女1.6	
機械台数 (動力)	2.0	0	0.92		" 0.63	
(人力)	1.0	0	0.15			
圃場の距離 m	850	20	296			
栽植密度株/m ²	30.9	24.7	27.6			
収量 kg/10a	1.125	865	戸別 1,044 全 1,110			
一〇a 当り労働時間	苗堀・苗割り	123.9	26.4	76.2	24.0	植付期
	畦ぬり	8.1	0	2.5	0.8	
	耕起・代掻	14.7	3.3	7.1	2.2	37.2%
	施肥 (内元肥)	27.4	3.8	10.6	3.3	
	(内元肥)	(13.5)	(0)	(3.0)	(0.9)	40.4時間
	植付	75.5	18.0	29.3	9.2	
	灌水	35.2	0	9.7	3.1	収穫期
	除草剤散布	9.1	0	1.8	0.6	
	手取除草	60.8	0	14.7	4.6	50.0%
	先刈	15.2	0	6.3	2.0	
収穫・乾燥	248.6	73.2	158.8	50.0		
その他	3.3	0	0.4	0.1		
計	432.0	190.8	317.3	100		
内雇用労力	植付期	98.5	0	31.1	26.3	21戸
	栽培管理	15.1	0	2.2	5.4	5戸
	収穫期	172.6	0	50.8	32.0	20戸
計			84.1	26.5		

農家が3戸もあつたことは注目される。地域別では新地（概ね干拓後150年以内）の有利性がみられ、区画整理の効果が大きい。経営面積・イグサ面積別では殆んど大差なく、機械化が困難なイグサの特徴を現わしている。圃場までの距離は明らかに近距離の有利性がみられ、又雇用労力に依存することは能率低下を招く

第2表 10a 当り所要労働時間と経営条件との関係

分類	250時未満	300時	350時	400時	400時以上	計	平均所要時間	比率
総時間	戸 2	戸 10	戸 6	戸 5	戸 3	戸 26	317.3	
地域別 (新旧)	2	6	1	4	1	14	305.5	100
		4	5	1	2	12	331.1	109
経営面積	200a 以下	5	4	2	2	14	322.4	100
	" 以上	1	5	2	3	11	311.4	97
1戸当りイグサ面積	40a 以下	1	4	4	2	13	317.3	100
	" 以上	1	5	2	4	13	317.3	100
早刈栽培の有無	有	2	6	2	3	15	309.8	100
	無		4	4	2	11	327.6	106
圃場距離	300m 以下	1	7	3	2	13	301.9	100
	" 以上	1	3	3	5	13	332.7	110
雇用労力の割合	20% 以下	2	4	3	1	12	310.1	100
	" 以上		4	3	4	14	323.5	104

このようである。

2. 作業別労働時間

平均労働時間は第1表の如く、植付期の所要時間は37.1%で収穫期と合すると87%を超え、この両期に集中している。第3～9表から、粗植による苗掘作業の苦しい省力傾向がみられ、区画整理による畦めり、耕起代掻作業や灌溉作業の省力効果も大きい。又除草剤使用の効果も大きいのが、使用技術が低く、十分な効果をあげているとはみられない。収穫作業は全体の50%を占めているが、圃場距離の影響が大きく、雇用労力へ依存する程能率が低下する傾向は他の作業より特に著しい。これは収穫作業が他の作業より重く、且つ熟練を要するためであろう。

第3表 栽植密度と苗掘・苗割作業

区 別	50 時間 未満	80 時間 〃	110 時間 〃	110 時間 以上	農家数	平均	比率
m ² 当り27株以下	戸 4	戸 8	戸 2	戸 1	戸 15	時 68.3	100
〃 以上	戸 4	戸 4	戸 6	戸 1	戸 11	時 87.1	127.5

第4表 栽植密度と植付作業

区 別	30 時間 未満	40 時間 〃	50 時間 〃	50 時間 以上	農家数	平均	比率
m ² 当り27株以下	戸 10	戸 3	戸 1	戸 1	戸 15	時 29.9	100
〃 以上	戸 6	戸 4	戸 1	戸 —	戸 11	時 28.6	96

第5表 区画整理と畦めり作業

区 別	3 時間 未満	5 時間 〃	7 時間 〃	7 時間 以上	農家数	平均	比率
区画整理 無	戸 6	戸 2	戸 1	戸 3	戸 12	時 4.3	100
〃 有	戸 14	戸 —	戸 —	戸 —	戸 14	時 0.9	20.9

第6表 区画整理と耕起代掻作業

区 別	4 時間 未満	7 時間 〃	10 時間 〃	10 時間 以上	農家数	平均	比率
区画整理 無	戸 —	戸 5	戸 3	戸 4	戸 12	時 8.6	100
〃 有	戸 4	戸 7	戸 —	戸 3	戸 14	時 5.8	66.3

第10表 共同経営と個人経営

作業別 区 別	苗掘 苗割	畦めり	耕起 代掻	施肥	植付	灌溉	除草剤 の散布	手取 除草	先刈	収穫 乾燥	その他	計	比率	10a 当 収 量	比率
個人経営	56.3	1.0	4.8	10.8	33.2	2.4	0.4	24.8	2.7	173.2	0.8	310.4	100	kg 976	100
共同経営	44.8	1.3	4.0	7.4	29.4	0	9.1	10.6	5.8	165.3	1.3	279.0	89.9	1,125	115
比較	-11.5	+0.3	-0.8	-3.4	-3.8	-2.4	+8.7	-14.2	+3.1	-7.9	+0.5	-31.4	-10.1	+149	+15

第7表 区画整理と灌溉作業

区 別	5 時間 未満	10 時間 〃	20 時間 〃	20 時間 以上	農家数	平均	比率
区画整理 無	戸 3	戸 4	戸 4	戸 1	戸 12	時 10.4	100
〃 有	戸 6	戸 3	戸 3	戸 2	戸 14	時 9.0	86.5

第8表 除草剤使用と除草作業

区 別	10 時間 未満	20 時間 〃	30 時間 〃	30 時間 以上	農家数	平均	比率
除草剤 無使用	戸 2	戸 2	戸 1	戸 1	戸 6	時 22.4	100
〃 使用	戸 7	戸 8	戸 4	戸 1	戸 20	時 14.7	65.6

第9表 圃場との距離・収量・雇用労力と収穫作業

区 別	100 時間 未満	150 時間 〃	200 時間 〃	200 時間 以上	農家 数	平均	比率
圃場 距離	戸 1	戸 5	戸 5	戸 2	戸 13	時 152.2	100
	戸 —	戸 4	戸 6	戸 3	戸 13	時 165.4	108.7
収量	戸 1	戸 6	戸 6	戸 2	戸 15	時 153.9	100
	戸 —	戸 3	戸 5	戸 3	戸 11	時 165.5	107.6
雇用労力	戸 1	戸 4	戸 4	戸 2	戸 11	時 148.4	100
	戸 —	戸 2	戸 3	戸 1	戸 6	時 161.3	108.7
	戸 —	戸 3	戸 4	戸 2	戸 9	時 169.8	114.4

3. 雇用労働時間

雇用労働の能率が低いことは既にふれたが、その依存度は第1表の如くで、植付期と収穫期に労働が集中するので殆んど農家が雇用し、自家労力のみで栽培した農家は僅か2戸に過ぎなかつた。

4. 共同経営と個人経営

共同経営(昭和35年11月発足した信農生産共同組合、8戸共同)と個人経営(同干拓地の4戸)とを対比すると第10表の如くである。この組合は部門担当制で進んだ技術や積極的に取入れる体制をとり、除草剤や先刈等の新技術の導入に先んじて、31時間、約10%の省力と15%の収量増を得ている。殆んど手労働によるイグサ栽培でこのような結果をみたのは、作業を分化したためムダな時間が省かれたものと考えられる。